

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Impact of breastfeeding during infancy on functional constipation at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

1歳までの母乳栄養状況と3歳時点における機能性便秘との関連

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 信州大学サブユニットセンター

発表雑誌名: International Breastfeeding Journal

2023年:

DOI: 10.1186/s13006-023-00592-y

筆頭著者名: 元木 倫子

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

乳児期の母乳栄養の状況と離乳後の3歳での便秘との関連についての報告は少なく、結論が出ていない。本研究では、エコチル調査のデータを用いて、1歳までの母乳栄養の状況と3歳時における子どもの機能性便秘との関連を調べた。

方法:

エコチル調査に参加する単胎生産の子どもを対象とした。3歳時の質問票への回答により、Rome III 基準により評価された機能性便秘の有無を従属変数とし、以下の1歳までの母乳栄養状況との関連についてロジスティック回帰分析を用いて解析した。

1) 1歳までの母乳栄養の期間: 無し(参照群)、6か月以下、7か月以上

2) 生後1か月、6か月時点での栄養状況: 完全母乳栄養(参照群)、混合栄養、人工乳のみ

結果:

対象となった70,078人のうち8,118人(11.6%)が3歳時点で機能性便秘を有していた。共変量で調整した結果、1歳までの母乳期間(7か月以上:調整オッズ比[OR] 0.76, 95%信頼区間[CI] 0.65-0.88)、生後1か月の栄養状況(混合栄養: OR [95%CI] 1.17 [1.11-1.23], 人工乳のみ 1.23 [1.07-1.40])、6か月時点での栄養状況(混合栄養: OR [95%CI] 1.18 [1.12-1.24], 人工乳のみ 1.42 [1.20-1.68])が3歳時点での機能性便秘と有意な関連を認めた。

考察(研究の限界を含める):

母子の健康上の利点から、例えば米国小児科学会では生後6か月までの完全母乳栄養や1歳を超えて長期にわたる母乳育児を推奨している。乳児期の母乳栄養状況による便性の変化についての報告はあるが、離乳後年月が経ってからの機能性便秘への影響についての報告はない。母乳栄養による腸内細菌叢の変化はよく知られているが、学童期まで持続するという報告がある。また、便秘の子どもに特有の腸内細菌プロファイルの報告もある。乳児期早期の母乳栄養による腸内細菌叢の変化が、後の便秘発症に寄与している可能性も考えられる。しかし、便秘の原因には複数の因子が関与しており、本研究では食事内容や水分摂取量、遺伝的背景などが考慮されていないことが限界点として挙げられる。

結論:

1歳までの乳児期における長期間の母乳栄養と乳児期早期の完全母乳栄養が3歳時の便秘の発症リスクを低くする可能性が示唆された。